

申16号「八戸線八戸・久慈駅間のワンマン運転実施について」に関する申し入れ

団体交渉その1

1 津波発生時の避難経路・避難場所の整備状況と避難経路の除草、除雪体制について明らかにすること。

組合

除草を定期的を実施すること。

避難看板はどのように考えているのか。

除雪はどのように考えているのか。

有家のY28とY29の避難階段は急斜面で避難するのに苦労するため、変更してほしい。

会社

これまでは陸中八木地区の15ヶ所の除草を7月に実施してきたが、今後は7月と9月に鮫地区を追加して計20ヶ所除草することを検討している。

113ヶ所の避難口のうち、暗い箇所は太陽光で照らすLED照明を付けること検討している。検討では8割程度設置する予定。

申告や優先順位をつけて実施することとなる。

早く高いところへ避難という考えもあるので、変更する予定は無いが、技術的課題も含めて検討する。

2 津波注意区間に列車が止まった場合の(引き抜き)に対する考え方を明らかにすること。

組合

現場によっての対応も変わってくるため、引抜に対する基準を明確にするべき。

会社

速やかに安全な場所へ止まることが前提。乗務員の判断が最優先となる。

申16号「八戸線八戸・久慈駅間のワンマン運転実施について」に関する申し入れ

団体交渉その2

3 津波発生時の防災情報と気象情報の取り方と対応について明確にすること。

組合

乗務員に対する情報の伝達を早めにはできないか。

指令からの指示が遅ければ不安を感じる。

会社

地震が発生してから、列車を止める有無や津波発生の有無、気象庁の情報や自治体の情報を指令が聞いてから乗務員への情報提供となる。
自治体へは、鉄道用地への津波侵入の有無を確認している。

早めの情報提供を心がける。

4 津波注意報が発令された場合は避難することを基本とすること。

組合

注意報から警報に上がることを想定して準備するべき。

気象庁のHPの情報では注意報でも警報でも「海から離れろ」となっている。

注意報の時点で逃げる準備をすると認識してもらいたい。

注意報から警報に上がる前提を確認したい。避難を優先することを前提にしたい。

会社

現在は警報で避難となっている。線引きをどこにするか。

注意報だから列車を走らせるとは思っていない。

その判断も否定するものではない。

乗務員の判断を否定するものではない。津波避難行動心得の通り、最大限命を守る行動を前提にし乗務員の判断になる。

申16号「八戸線八戸・久慈駅間のワンマン運転実施について」に関する申し入れ

団体交渉その3

5 津波発生時は乗員の判断を尊重し、その結果については会社が責任を持つこと。

組合

判断結果については個人に責任を負わせないこと。

会社

津波避難行動心得や津波発生時対応マニュアルを基に、安全最優先で行動したのものについては会社が責任を持つ。

6 津波避難区間におけるワンマン用乗務員訓練の内容と現車訓練の考え方について明らかにすること。

組合

現場の声は、訓練は現地・現車で全乗務員対象で行いたい。

転換者や2～3年目を対象に訓練をしたほうが良いという問題意識はある。

地区主催の訓練会は継続するのか。

会社

可能な限りやっていきたい。組合の思いは分かる。区所からのアクションで支社がバックアップしていく。アイデアも含めて提言してもらいたい。

区所で設定してもかまわない。区所で設定したほうがベターという思いもある。

地区主催としての訓練は年1回を継続していく。

7 繁忙期については職場の声をもとにワンマン解除などの対策を行うこと。

組合

ワンマン解除の実施は。

八戸線は無人駅が多く、大休期間は車掌対応が多くなることが想定される。

会社

繁忙期よりは地域イベントの方がご利用が高い認識がある。現場と情報交換は行っていく。

ノリホの数がベースとなるが、現場と情報交換していきたい。

申16号「八戸線八戸・久慈駅間のワンマン運転実施について」に関する申し入れ

団体交渉その4

8 津波避難区間のワンマン運用に関しては夜間を行わないこと。

組合

原則ワンマンの指定理由はわかるが夜間は不安である。

会社として昼夜問わずに避難できる認識か。

女性乗務員のために新設したものはあるのか。

会社

シミュレーターやビジュアル教材を活用して環境を整えていく。

現場で声を出してもらって、よりよいものを作っていきたい。可能なものは対応していく。

防犯スプレーは全女性上院が携帯している。今後も、現場から声を上げてもらいたい。

9 ワンマン運用時の検証については労使共に行い認識を一致させていくこと。

組合

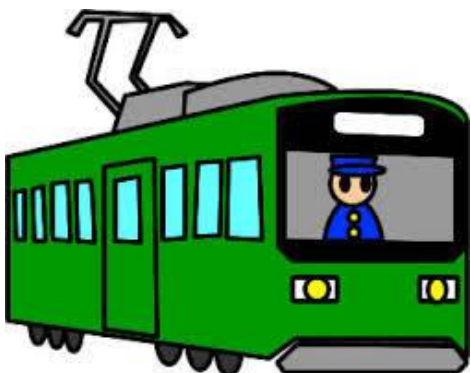
ワンマン運用後の検証を労使で行っていききたい。

ご利用状況だけではなく、案内等含めての対応も必要。

会社

会社としても現場をみていく。

年数回乗車案内を続けながら、現場とやり取りをしていきたい。



命を最大の価値基軸とし、
安全で安心な列車を提供しよう!